

離乳後こそ勝負どき！

～ホルスタイン牛のちょうどよい栄養摂取量～

概要 Abstract

- ・離乳直後（生後約6週齢）の子牛は、えさを消化する胃（特に草を消化する反芻胃）が十分に発達していない
- ・そのため食べた栄養がどのくらい体重増加につながるのかは、正確にはわかっていない
- ・現場では、管理者の経験に基づいた飼養が行われることが多く、その結果、農場ごとに育成牛の成長に差が生じている

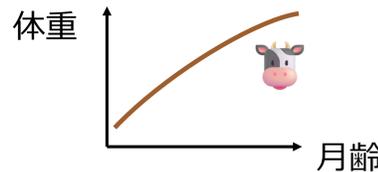
【本研究】13か月齢での受胎を目指し、離乳（約6週齢）から150日齢までの望ましい体重増加量と、それを達成するために必要な養分摂取量を示す

成長とともに、消化吸収能力向上

成長段階	えさを食べる量	消化吸収の力
離乳直後	少ない	やや弱い
150日齢	多い	強い

成果 Results

1. 望ましい1日当たりの体重増加量
0.85～0.95 kg/日



ホルスタイン種雌牛の推奨発育値（参照）
（ホルスタイン登録協会2020）

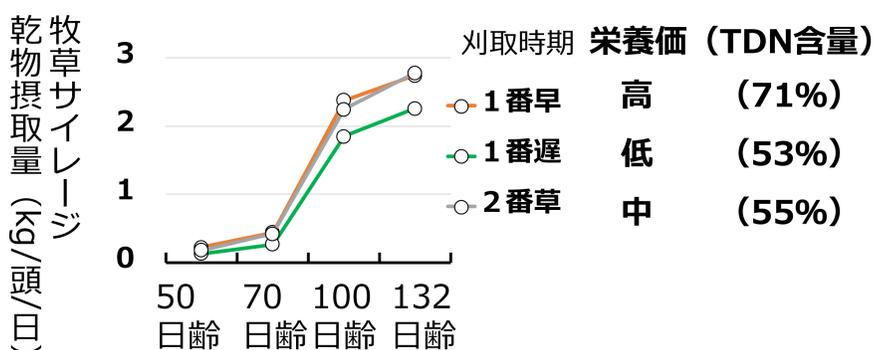
2. 必要な養分摂取量と乾物摂取量 (kg/日/頭)

日齢	TDN摂取量	タンパク質摂取量	乾物摂取量
50～150日齢	1.51～3.14	0.39～0.84	1.9～4.78

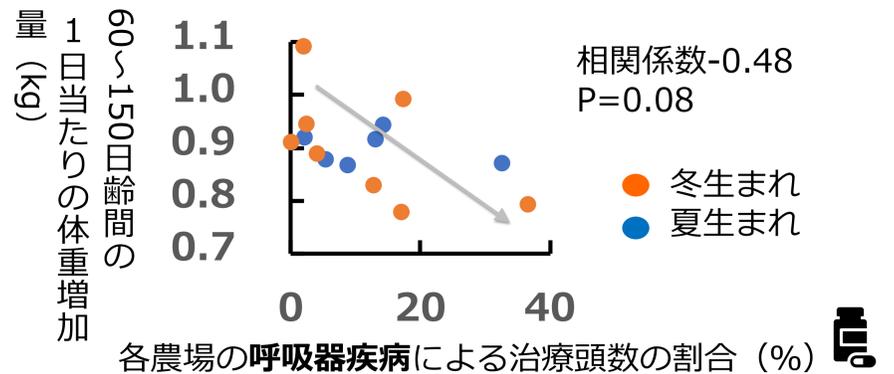
TDN；可消化養分総量の略、飼料中のエネルギー含量を示す

うまく増えない要因は？

牧草サイレージ 栄養価が低いと摂取量 ↓



病気になると体重増加量 ↓



体重増加量が低い

初回排卵&授精 遅い

	離乳～150日齢までの1日当たりの体重増加量 (kg) の分類		
	0.85未満	0.85～0.95	0.95以上
初回排卵月齢	10.0 ^a	8.8 ^b	9.0 ^b
初回授精月齢	12.3 ^a	11.6 ^b	11.3 ^b

ab P<0.05

普及 Dissemination

- ・酪農家、哺育育成預託牧場および普及センターなどの支援機関が離乳から150日齢までの育成雌牛の体重増加を調節する際の参考となる
- ・本研究の一部は、JRA畜産振興事業「乳牛預託哺育・育成牧場の飼養管理実態調査事業」（平成31年度～令和3年度）による助成を受けて実施した



連絡先 Contact

酪農試験場
酪農研究部 乳牛グループ
0153-72-2004
konsen-agri@hro.or.jp